

# 矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol. 4



発行日：平成 28 年 10 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 35 回山部会WGを開催しました！

9月16日(金)に第35回山部会WGが恵那市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 9 月 16 日 (金)  
場所：恵那市串原振興事務所 串原コミュニティセンター 3 階会議室  
参加者：14 名 (事務局含む)



## ◆主な会議内容

### 1. 山村再生担い手づくり事例集について



山部会では、2013 年度から 2015 年度にかけて、持続可能な流域圏につながる活動をしている団体を対象に取材して、「山村再生担い手づくり事例集」を 3 集発行しました。今年度は、最初の年に取材した 21 団体を対象に“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を展開することになっています。

#### ①主な取材内容

- ・前回の取材後、どのような変化があったか？ ・前回の取材時の課題は解決したか？
- ・現在の課題は何か？ ・山村再生担い手づくり事例集の活用に関する意見は？

#### ②今後の予定

9月～11月⇒取材、12月⇒レポートの作成・提出、1月⇒完成、3月⇒交流会



### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて



以下の2項目について、山村ミーティングに関する意見交換を行いました。

#### ①流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

ヒアリングの下準備として、森林・林業プランナーの研修を受けて繋がりを持てるようにしています。また、基礎知識をもう一度確認し、作業班の人たちと共通言語を持てるように勉強しています。その上で、ヒアリングを始めたいと思います。

#### ②流域に関わるお祭りの実施に向けて

「もみじまつり」に代わるお祭りの開催、矢作川感謝祭への主催者側としての参加はできませんでした。引き続き関係者との話し合いを持ちたいと思います。



### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



以下の3つの項目について、森づくりガイドラインに関する情報共有と意見交換を行いました。

#### ①矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

⇒2008 年以降の流域市村の間伐面積の推移は概ね減少傾向にあります。

#### ②近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理

⇒ヨーロッパでは、森林施業は環境破壊という認識がある。施業に関する環境破壊を防ぐため、推奨される森林管理手法が細かく定められています。

#### ③自主企画「神奈川山北町の森づくり」の視察提案

⇒水源環境税の活用方法について、山北町の取組みを視察したいと思います。

#### ④今年度の水循環に関する計画とモデル調査実施団体募集のお知らせ

⇒矢作川流域圏懇談会も、近い将来にモデル調査実施団体に応募したいと考えます。



### 4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて



以下の3つの項目について、木づかいガイドラインに関する意見交換を行いました。

#### ①木づかいガイドラインが意図していること

⇒見える化された木づかい推進活動を通して、関係者全員が「繋がる」ことが最も重要であると考えます。

#### ②木づかいガイドライン作成依頼者について

⇒市民編として、山村再生担い手づくり事例集の取材先に木づかいの推進をしてもらいたいと考えています。

#### ③合同部会における木づかい推進

⇒全懇談会員で「流域ものさし」を作り、新たな連携のきっかけにしたいと思います。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

- ・取材団体に木づかい推進の「さあ~しよう」の提案を何か引っ張り出せないかと考えている。(今村)  
▶ 事例集のメーリングリストに質問すべき内容の例を投げかけてもらえないか。(洲崎)
- ・前回、年度末に事例集交流会を開催することについて、飲み会や宿泊を見据えた金曜日の開催が良いという意見があった。とても良い提案だと考えられるため、日程調整をしたいと思う。(洲崎)
- ・どんな成果をイメージしているのか。(蔵治)  
▶ 簡易製本にするかどうかなど、レポートの状況次第で判断したいと思う。(洲崎)
- ・レポート自体は、これまでと同じように執筆するということか。(蔵治)  
▶ あまり形式的なものではなく、ある程度自由度の高いものにしたい。(洲崎)

### ●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・足助の「もみじまつり」は、豊田森林組合主催のイベントだった。今年からは何もなくなってしまうのか。(蔵治)  
▶ 何かやりたいという話は出ている。(丹羽)
- ・矢作川感謝祭は、多くの親子が参加しにぎわっていたが、矢作川河畔の広い敷地があるため、いっそうの規模拡大が望める。(高橋)  
▶ 今年は、新たな主催者に加え、イベントの内容も大きく変わったため、山の関係者まで手を広げる余裕がなかった。お祭りを経験して、主催者側の手ごたえがあったので、来年は規模拡大を目指しているようだ。(洲崎)

### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理》

- ・大規模な林業を行う場合に、地域の合意を得て、水道水の取水を一時的に停止するというのは驚きだ。(洲崎)
- ・愛知県でも奥三河地域の一部集落では、簡易水道の水源を持っていて、そこでの作業は慎重に行っている。(大森)
- ・根羽村でもこれらの指標について、〇×でチェックをしてみるのも良いかもしれない。(今村)  
▶ そういった情報を是非提供してほしい。(蔵治)

《自主企画「神奈川県山北町の森づくり」の視察提案》

- ・神奈川県在住の坂井マズミさんは、水源環境税がきちんと使われているかを厳しくみている。(丹羽)  
▶ どのようなチェックをしているか、矢作川にも参考になることが多いと思う。(蔵治)
- ・皆さん忙しそうなので、現時点では未定ということで、日程調整については、また協議したい。(蔵治)

《今年度の水循環に関する計画とモデル調査実施団体募集のお知らせ》

- ・あくまで流域圏懇談会は河川整備計画に基づいて設置されたのであって、水循環基本法に基づいているのではない。しかし、概ね共通した活動を行っているので、団体名が重なっても問題はないと思う。(蔵治)  
▶ 現在の流域圏懇談会は、意見交換だとか情報共有にウエイトが置かれている。この活動の目的は水循環計画を作ることにある。次年度以降も継続する取組みであるため、忘れないようにしてほしい。(大森)
- ・水循環の先進地である岡崎市からは、前向に検討しているとの返事をもらっている。(蔵治)

### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・山・川・海の合同で集まる全体会議等で、全員参加による「流域ものさし」の製作を行ってはどうか。(今村)  
▶ 確かにそれは良いアイデアだと思う。全員が会える唯一の機会を有意義なものに変える必要がある。(蔵治)
- ・もし、岡崎市で豊田市みたいな水道料金上乗せの基金が成立すれば、積木みたいなものを岡崎市全域に供給されるべきだ。お金が下流から上流に動き、物が上流から下流に動くというのは自然なことだと思う。(蔵治)  
▶ 山北町の森づくり(上記)もここも同じ。木育のために使われる自然な仕組みができるといい。(丹羽)

## ◆話題提供・・・矢作川源流の山＝大川入山山頂付近のササ原の分布特性について

第34回山部会WGでは、矢作川源流に位置する大川入山(おおかわいりやま)の特異なササ原の分布が話題となった。そのため、事務局補佐のアジア航測(株)が経年的な空中写真の比較および地元住民へのヒアリングを通して、情報の整理を行ったものである。

長野県下伊那郡平谷村に位置する大川入山は、長野・愛知県境の茶臼山(ちやうすやま)と並び、矢作川源流の山である。また、標高が1,908mと矢作川流域内で唯一亜高山帯植生を有しており、山頂部はダケカンバやシラビソ等の針広混交林となっている。しかし、実際には広大なササ原(シナノザサ)が尾根に対して非対称(西側に偏った)に分布していた。平谷村住民へのヒアリングの結果、少なくとも昭和20年ごろまでに、村内の広い範囲が皆伐されたことがわかった。戦後70年を経過しても、人為的かく乱の傷が癒えていない状況である。特に尾根部では、強烈な西風、土壌の薄さ、シナノザサの優占といった物理的要因が加わり、植生遷移が進んでいない。



大川入山山頂付近の植生

## 今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、10月7日(金)～8日(土)岡崎市にて開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。

